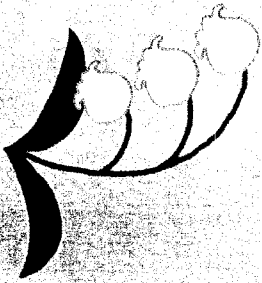
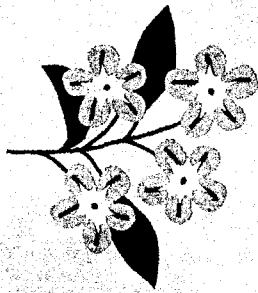


第八号

ここのは書林



いろは歌と仏教、そして日本語

斎藤 明 ● 東京大学大学院教授

「色にはほへど散りぬるを、わが世たれぞ常ならむ、
有為の奥山けふ越えて、浅き夢見じ酔ひもせず」(いろは歌)

江戸時代、庶民の遊びの一つに、いろはかるたがあった。「一寸先は闇」で始まる上方かるたに対して、江戸かるたは、「犬も歩けば棒にあたる」から始まるため、犬棒かるたなどとも呼ばれる。いずれも、いろは……の四十七文字それぞれを頭に置き、遊びながらにして日常の警句や訓戒を学ばせようという庶民の智慧をうかがわせている。

このいろはかるたのもつ味わいは、一枚一枚のかるたの文句に記された警句や訓戒に尽きることはない。これらの四十七枚(のちに末尾に「ん」または「京」の文字がくわえられ、四十八枚)のかるたの元歌となった、いろは歌そのものにも隠し味がひそ

んでいる。

冒頭に挙げたいろは歌は、

「さくらの花は今を盛りと芳しく咲きほつているが、やがて散ってしまう。それと同じように、この世には、つねに変わらなすにありつづける者などはいない。この有為の奥山を今日こそ越えてゆこう。そこではもはや、浅はかな夢を見ることもなく、酔いしれることもない。」

というような意味をもつ。同じ文字を重ねて用いることはなく、四十七文字によって仏教教理のある種のエッセンスを言い当てている。このいろは歌は、すでに平安中期には、いろは……の字母表や、手習いの手本、さらには物の順序を示すときにも用いられていたという。

ところで、先にみた四句・四十七文字からなるいろは歌は、大乘仏教系の『大般涅槃経』に出る、次のような「無常偈」を意訳したものとされる。

「諸行無常・是生滅法・生滅滅已・寂滅為楽」(大正藏・第十二卷)

(形づくられたものは無常である。生滅の性質をもっている。生じては滅し、滅しおわる。(形づくられたものの)静まりこそが楽しみである。)

同経によれば、その昔、ヒマラヤ(雪山)で修行をしていたブツダ(釈尊)は、鬼

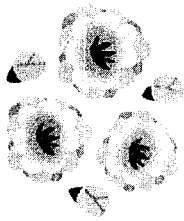
(羅刹)の姿をしたインドラ神(帝釈天)がこの偈の前半部分を称えるのを聞いてたいへん感動し、後半部分を聞くために生命を投げ出したという。それゆえ、この偈は雪山偈の名でもよく知られ、法隆寺の玉虫厨子の板絵にもわが身を投げ出す雪山童子の絵が描かれている。

この無常偈は、アツタの死の場面を描いた伝統教団系の『大般涅槃經』にも同じ訳文をもって登場する。ここでは、アツタの死を悼んだインドラ神がこの偈を詠じるという文脈であるが、詩頌の内容は姿わらない。これに対応するパトリ語(スリランカや東南アジアに伝承された聖典語)の文章もまた、ほぼ同様に「形づくれたものは、しつに無常であり、生起と消滅の性質をもっている。生起しては消滅する。それら(形づくれたもの)の静まりこそは楽しみである。」(長部)とある。このなかの「形づくれたもの静まり」云々という最後の一文は、注釈によれば、形づくられていない、つまり無為のニルヴァーナ(涅槃)煩悩の炎が吹き消された境地)をさし、それこそが真の意味での楽しみであるという。

それにしても、いろは歌の作者には感心させられる。すべて異なる四十七の文字によつて、みごとに無常偈の意味するところを伝えている。やまと言葉運ねた七五調の響きもまた格別だ。悠久の時のなかに、さくらの花の美しさと芳しい香りが、奥ぶかい山道の上に、立体感をもつて伝わってくる。そこには、元歌の無常偈にみる生硬さは微塵もない。和語の美しい響きをもつて、この国の風土のなかに無常偈を透かしこみ、この美しい風土に育まれた人々の感性にうたえている。作者は空海であるとまいわれるが、もとより俗説である。読み知らずであるところに、むしろこのい

ろは歌の味わいはある。

近世の末期以降、いろはの字母表は次第に五十音図にとつて代わられることになり。いろは歌もまた無常の風には抗しきれなかったのだ。いろは歌にあつて五十音図にはないこの恐ろしいほどに深い味わいはしかし、日本語のもつ豊かな含蓄と美しい響きを愛する人々の心を、これからもなお捉えてやまないことであろう。



あとがき

このは 第八号をお届けいたします。
 本号は小説家・柳野真生氏・シゲイシゲイ氏・みなみらんぼう氏、
 院教授・高藤明氏ほか各界で活躍の方々に貴重なお時間を傾けて執筆いただきました。
 ご協力に心より感謝申し上げます。それぞれの立場、ご経験に基づいた貴重な内容は、読者
 のみなさまに楽しくお読みいただけることとして、秋の旅のテーマとして思っ
 ていたより適度な賑わいの中、いにしよの都の静謐さを満喫できました。まさに歌や句の世
 界そのものでした。
 ！ゆく秋の大和の国の蓮華寺の塔の上なる一ひらの雲（佐佐木信綱）
 ！ 柿くへば鐘か鳴るなり法隆寺（正岡子規）
 旅から戻り、その奈唄もさめやらぬある日の新聞に「正岡子規と食欲の秋」に関するコラ
 ムを見つけました。東京・銀座の里で病床に臥せる身でありながらも涙をぬき食欲は、現代の
 グルメや人食漢もびつくりの鼓立内容です。「柿くへば……」も子規の食べ物への関心が表れ
 た名何と見れば、また別の鑑賞ができるでしょう。
 奈良の柿と比べようもないのですが、我が家にも祖母が植えた小さな柿の木があります。
 桃栗三年柿八年の嫁の如く、数十年前経つて今や毎年甘柿をたわねに実らせてくれます。晩
 秋になると、木に残った柿を小鳥たちがやっつて来ます。果実をついはむ姿を眺める
 だけでも飽きないものです。柿の実をすべて平らげた後でも初冬まで鳥たちの声は絶えません。
 舌舌しながら、駄句をひとつ。「いくたけも来て去る鳥や冬木の葉」
 本冊子も年一回のものです。柿のように実り多くありたいものです。

このは 第8号
 2014年12月20日 発行
 発行者.....高木 博
 発行所.....このは書林

〒252-0311 神奈川県相模原市南区東林間 4-11-7
 ネオマックス 東林間 405 号室
 TEL 090-2332-1574 FAX 045-985-1892
 E-mail: honya@kotonoha-shorin.jp
 http://kotonoha-shorin.jp

- 217 ビアニストは指先で考える／青柳いつみこ／新潮社／2007／初版／1,000
- 218 青柳瑞穂の生涯／青柳いつみこ／新潮社／2000／初版／1,200
- 219 六本指のゴルトベルク／青柳いつみこ／岩波書店／初版／1,200
- 220 水のまなざし／青柳いつみこ／文藝春秋／2010／初版／800
- 221 なつかしの音楽教科書／濱崎真彦、平澤元／ヤマハミュージックメディア／2003／初版／1,400
- 222 母と昭和とわらべ唄／海老名香葉子／風書院／2013／初版／1,200
- 223 心にしみる教科書の歌／川崎洋／いそづつ社／2003／初版／800
- 224 子守唄はなぜ哀しいか／石子順造／柏書房／2006／初版／1,200
- 225 唱歌・童謡ものがたり／読売新聞文化部／岩波書店／1999／5刷／1,000
- 226 漬けもの博物誌／小川敏男／八坂書房／2010／初版／1,000
- 227 食べ物のある風景／池波志乃／徳間書店／2007／初版／1,200
- 228 ミツバチのたどったみち／坂上昭一／新思泉社／2005／初版／1,500
- 229 カヲトムシと進化論／河野和男／新思泉社／2007／2刷／1,200
- 230 滅びゆく日本の動物50種／上野俊一／築地書館／1993／初版／1,000
- 231 自然界にひそむ「51」の謎／西山豊／筑摩書房／1999／初版／1,000
- 232 時計にはなぜ誤差が出てくるのか／織田一朗／中央書院／1998／初版／900
- 233 空也上人がいた／山田太一／朝日出版／2011／2版／800
- 234 わたしの数異抄／ひろさちや／すずき出版／1999／初版／700
- 235 仏教の世界観 地獄と極楽／ひろさちや／すずき出版／1991／800
- 236 敬慕する円空／梅原猛／新潮社／2006／初版／1,500
- 237 思うままに戦争と仏教／梅原猛／文藝春秋／2005／初版／1,200
- 238 俳句で綴る筑哲半生記／小沢昭一／岩波書店／2012／初版／1,900
- 239 日本文学の「素材」／池田彌三郎／NHK／1988／初版／1,200
- 240 読書礼讃／アルベルト・マンゲル／白水社／2014／初版／3,500
- 241 十五少年漂流記への旅1への旅／椎名誠／新潮社／2008／初版／600
- 242 若い藝術家の肖像／ジェイムズ・ジョイヌ（文谷才一訳）／集英社／2009／初版／2,000
- 243 日本の名随筆・園芸／柳宗民（編）／作品社／2006／5刷／900
- 244 日本の名随筆・俳句／金子兜太（編）／作品社／1999／6刷／900
- 245 日本の名随筆・競馬／高橋源一郎（編）／作品社／2007／2刷／900
- 246 千駄ヶ谷市場／先崎学／日本将棋連盟／2011／初版／1,000
- 247 山の上ホテルの流儀／森裕治／河出書房新社／2011／初版／1,000
- 248 世紀の恋人 ポーヴォワールとサルトル／クローデーヌ・セーユ＝モンテーユ／藤原書店／2005／初版／1,200
- 249 ビートルズ大学／宮永正隆／アズベクト／2006／初版／900
- 250 ウイズ・ザ・ビートルズ／松村雄策／小学館／2012／初版／1,000

※詳細は当店ホームページ <http://kotonoha-shorin.jp> の「古書目録」および「ご注文の方法」等をご参照ください。
 上記リストは当店在庫品のごく一部のご紹介にとどまりますので、その他在庫内容につきましてはホームページをご覧ください。
 ※送料はご注文1件につき（何冊でも）300円均一です。送金手数料はお客様ご負担にてお願い致します。
 ※ご注文、お問合せはEメールのほかに、電話またはFAXもご利用いただけます。